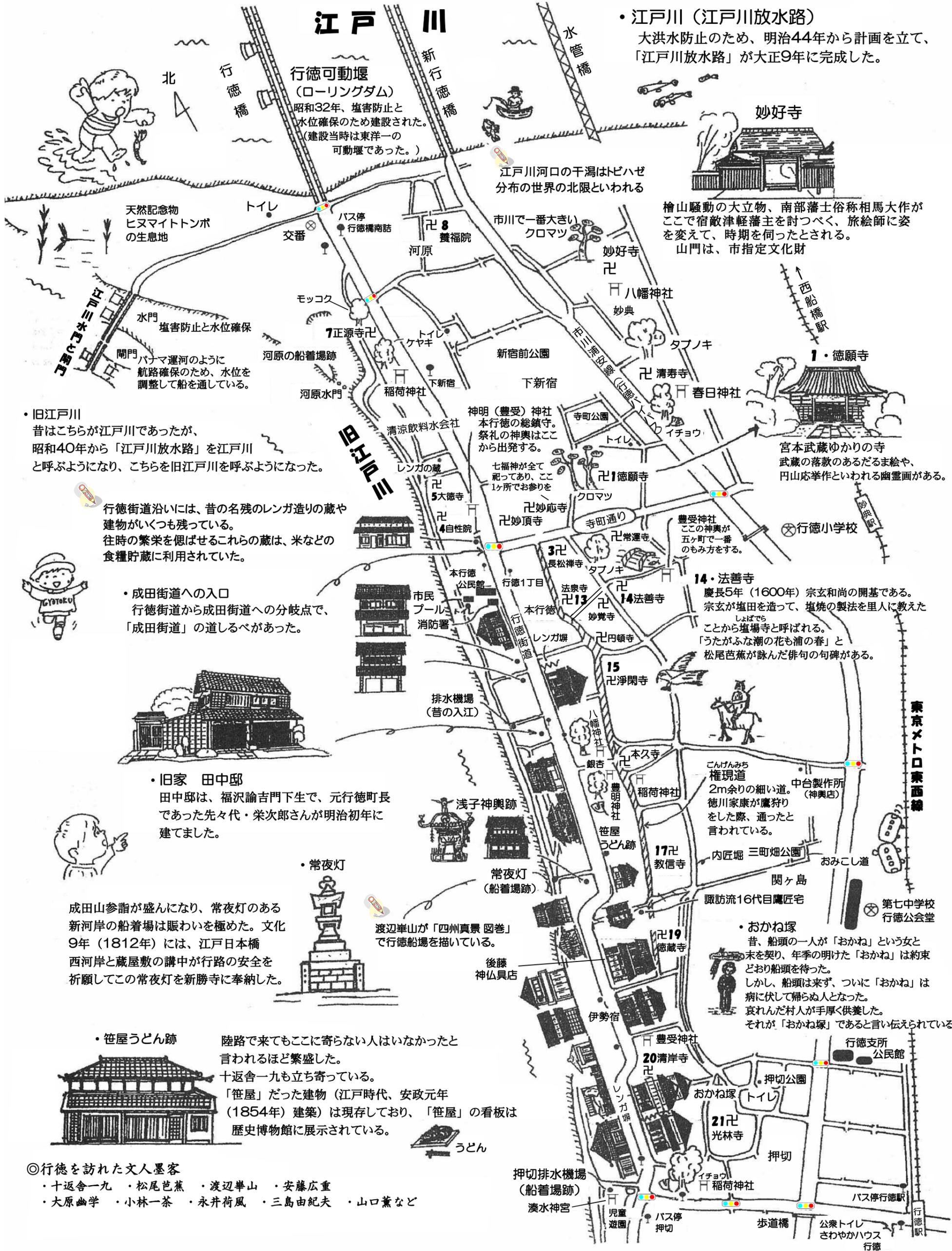


江戸川

江戸川（江戸川放水路）

大洪水防止のため、明治44年から計画を立て、「江戸川放水路」が大正9年に完成した。



行徳可動堰（ローリングダム）
昭和32年、塩害防止と水位確保のため建設された。
（建設当時は東洋一の可動堰であった。）

江戸川河口の干潟はビハゼ分布の世界の北限といわれる

妙好寺

檜山騒動の大立物、南部藩士俗相馬大作家がここで宿敵津軽藩主を討つべく、旅絵師に姿を変えて、時期を伺ったとされる。
山門は、市指定文化財

天然記念物
ヒヌマイトトンボの生息地

水門
塩害防止と水位確保
開門
パナマ運河のように航路確保のため、水位を調整して船を通して

旧江戸川

昔はこちらが江戸川であったが、昭和40年から「江戸川放水路」を江戸川と呼ぶようになり、こちらを旧江戸川と呼ぶようになった。

行徳街道沿いには、昔の名残のレンガ造りの蔵や建物がいくつも残っている。往時の繁栄を偲ばせるこれらの蔵は、米などの食糧貯蔵に利用されていた。

成田街道への入口
行徳街道から成田街道への分岐点で、「成田街道」の道しるべがあった。

旧家 田中邸

田中邸は、福沢諭吉門下生で、元行徳町長であった先々代・栄次郎さんが明治初年に建てました。

常夜灯

成田山参詣が盛んになり、常夜灯のある新河岸の船着場は賑わいを極めた。文化9年（1812年）には、江戸日本橋西河岸と蔵屋敷の講中が行路の安全を祈願してこの常夜灯を新勝寺に奉納した。

渡辺華山が「四州真景 図巻」で行徳船場を描いている。

笹屋うどん跡

陸路で来てもここに寄らない人はいなかったと言われるほど繁盛した。十返舎一九も立ち寄っている。「笹屋」だった建物（江戸時代、安政元年（1854年）建築）は現存しており、「笹屋」の看板は歴史博物館に展示されている。

◎行徳を訪れた文人墨客

- ・十返舎一九 ・松尾芭蕉 ・渡辺華山 ・安藤広重
- ・大原幽学 ・小林一茶 ・永井荷風 ・三島由紀夫 ・山口薫など

1・徳願寺

宮本武蔵ゆかりの寺
武蔵の落款のあるだるま絵や、円山応挙作といわれる幽霊画がある。

14・法善寺

慶長5年（1600年）宗玄和尚の開基である。宗玄が塩田を造って、塩焼の製法を里人に教えたことから塩場寺と呼ばれる。「うたがふな潮の花も浦の春」と松尾芭蕉が詠んだ俳句の句碑がある。

おかね塚

昔、船頭の一人が「おかね」という女と末を契り、年季の明けた「おかね」は約束どおり船頭を待った。しかし、船頭は来ず、ついに「おかね」は病に伏して帰らぬ人となった。哀れんだ村人が手厚く供養した。それが「おかね塚」であるとい伝えられている。

21 光林寺

押切公園
トイレ

行徳周辺の主な年中行事

- 1月1日～3日 初詣
- 2月3日 節分会
妙応寺(本行徳)、常運寺(本行徳)
- 4月第1または第2日曜日
行徳三十三観音めぐり
一番礼所は徳願寺(本行徳)
- 6月30日 湊水神宮祭礼(湊自治会主催)
昔は、この日が初泳ぎの日であったという。
- 7月14日 胡録神社祭礼(湊新田)
- 土用一の丑の日 ほうろく灸加持
妙好寺(妙典)
- 8月上旬 市川市納涼花火大会



- 旧十五夜 ぜんそく封じ
(9月中旬～10月上旬) 清寿寺(関ヶ島)
- 10月8・9日 稲荷神社例大祭(下新宿)
胡録神社祭礼(関ヶ島)
- 9・10日 四ヶ村祭り 香取神社(香取)
(湊、香取、欠真間、湊新田の鎮守)
- 14・15日 日枝神社祭礼(相之川)
- 15・16日 八幡神社祭礼(妙典)
- 16・17日 行徳五ヶ町の祭礼
神明社(豊受神社)(本行徳)、
下新宿稲荷神社(下新宿)
- 16・17日 中旬 稲荷神社祭礼(押切)
熊野神社祭礼(新井)
春日神社祭礼(下妙典)
- 11月16日 お十夜会
徳願寺(本行徳)
円山応挙作といわれる「幽霊画」や
宮本武蔵作と言われる「だるま絵」の公開
- 12月31日 そろばん供養
徳蔵寺(関ヶ島)
除夜の鐘
善照寺(湊)、源心寺(香取)



昔、江戸川には浦安～関宿間で38ヶ所ほどの渡しがあった。また、江戸時代は戦術上の目的で江戸川に橋を架けなかった。

江戸川堤ジョギングコース
今井橋から常夜灯まで延長2,500mある。

今井の渡し
江戸時代に渡しがあり、特産の塩などもこの渡しから積み出された。



22・法伝寺
「勝鹿寺志手ぐりふね」の著者
新井の名主・鈴木金堤の菩提寺
ツツジの花が美しく、「明徳尋常小学校
開校旧跡之碑」がある

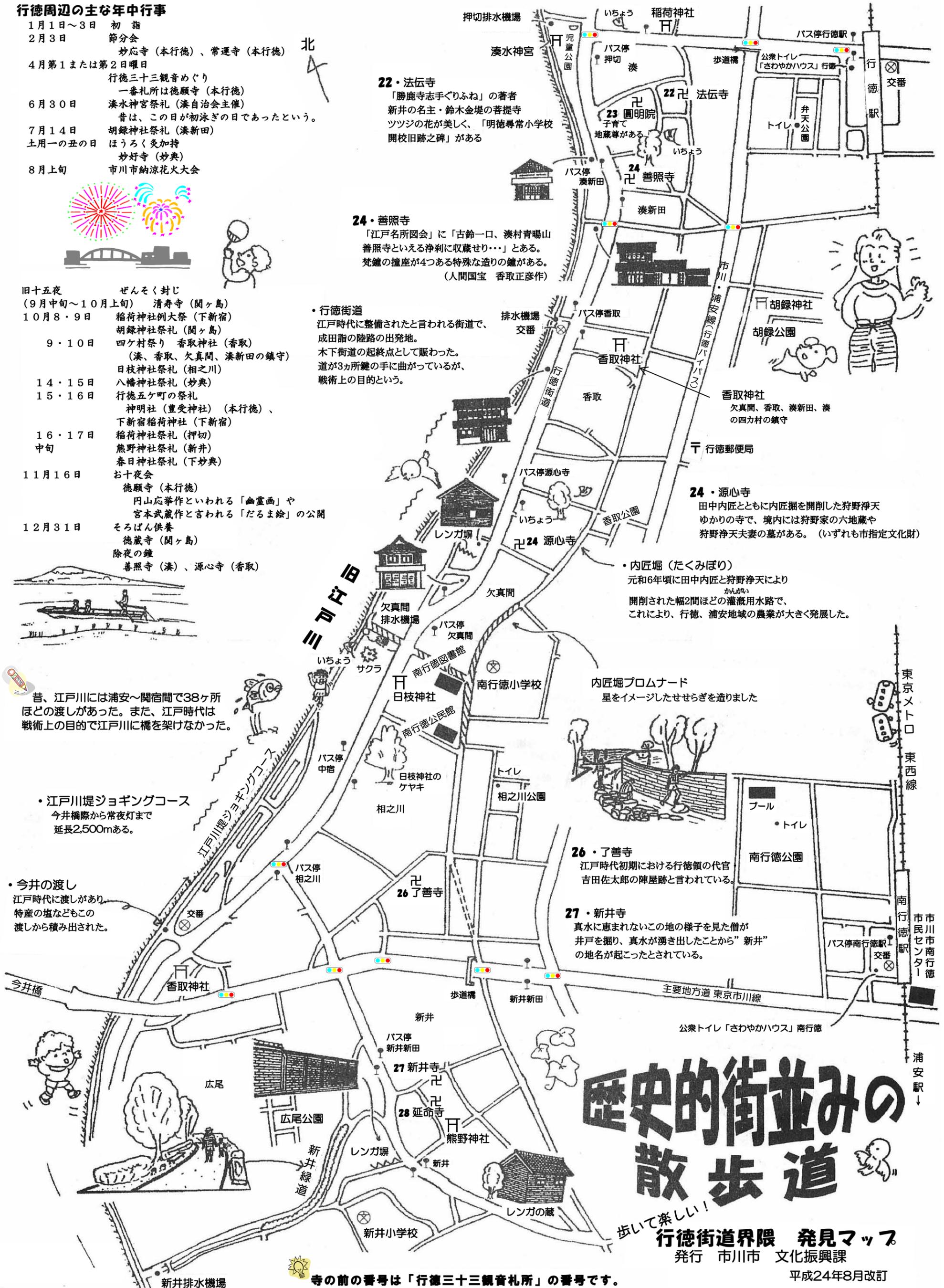
24・善照寺
「江戸名所図会」に「古鈴一口、湊村青嶋山
善照寺といえる浄刹に収蔵せり…」とある。
梵鐘の撞座が4つある特殊な造りの鐘がある。
(人間国宝 香取正彦作)

・行徳街道
江戸時代に整備されたと言われる街道で、
成田詣の陸路の出発地。
木下街道の起終点として賑わった。
道が3ヶ所鍵の手に曲がっているが、
戦術上の目的という。

・内匠堀(たくみぼり)
元和6年頃に田中内匠と狩野浄天により
開削された幅2間ほどの灌漑用水路で、
これにより、行徳、浦安地域の農業が大きく発展した。

26・了善寺
江戸時代初期における行徳領の代官
吉田佐太郎の陣屋跡と言われている。

27・新井寺
真水に恵まれないこの地の様子を見た僧が
井戸を掘り、真水が湧き出したことから「新井」
の地名が起ったとされている。



歴史的街並みの散歩道

歩いて楽しい!
行徳街道境界 発見マップ
発行 市川市 文化振興課

平成24年8月改訂

寺の前の番号は「行徳三十三観音札所」の番号です。